

はせさんず

2022 冬号 NO.98

ニュース

2022年12月6日(火)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 棧敷 洋子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付!

NPOの非営利活動にご寄附ご支援をお願いします

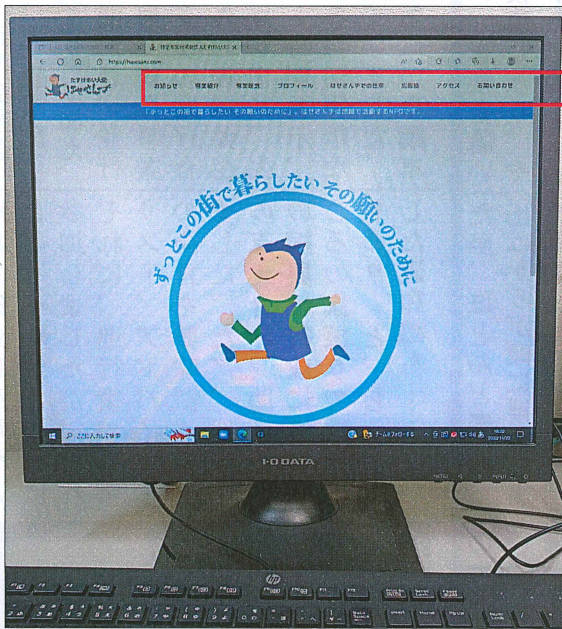
はせさんずのHPが生まれ変わりました!

http://hasesanz.com または **はせさんず** で検索

スマホでトップページをみる



パソコンでトップページをみる



メニューがふえました

お知らせ 事業紹介 事業理念 プロフィール はせさんずでの仕事 広報紙 アクセス お問い合わせ

はせ坊が事業を紹介します



会員制たすけあい事業

- 生活援助
- 介助
- 移送
- 見守り、話し相手



介護予防事業

- 元氣かい
- 居場所(寄り道カフェ)



介護保険事業

- 訪問介護
- 居宅介護支援
- 通所介護



障害福祉サービス事業

- 居宅介護
- 重度訪問介護
- 同行援護
- 行動援護
- 大田区移動支援



市民後見事業

- 任意後見の相談・受託
- 見守り
- 市民後見人養成講座



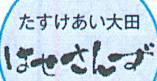
広報・調査事業

- 保健福祉の相談
- 講演会の企画・開催
- 広報紙の発行
- 各種研修



その他

- 行政受託によるサービス
- 自費サービス
(もっとはせさんず)



「よりわかりやすく、親しみやすく、タイムリーに」をめざして、ホームページを全面リニューアルしました。おもな変更点は、

- ① トップページなどデザインを変更し、写真を新規にする
- ② 「お知らせ」や「はせさんずでの仕事」など新メニューを追加する
- ③ リフレットPDFによる簡便な情報提供を行う

などです。

「お知らせ」ページでは、講演会・研修会開催などのアウンスを行うほか、元氣かい、寄り道カフェの予定を随時アップします。「はせさんずでの仕事」ページでは、各部門の仕事内容を紹介しつつ、求人情報を充実させています。併せて「事業紹介」の「会員制たすけあい事業」ページに「活動者紹介」記事を追加しました。活動会員のリアルな姿を見ることができるようになりました。「プロフィール」(旧「団体概要」)ページの「沿革」に

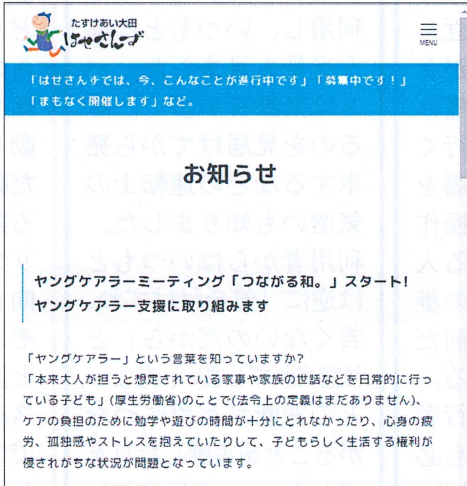
「概要」ページに加え、「事業紹介」ページに「はせさんずでの仕事」を掲載し、求人情報を充実させています。併せて「事業紹介」の「会員制たすけあい事業」ページに「活動者紹介」記事を追加しました。活動会員のリアルな姿を見ることができるようになりました。「プロフィール」(旧「団体概要」)ページに「沿革」に

仕事を
紹介して
います

はせさんずでの仕事

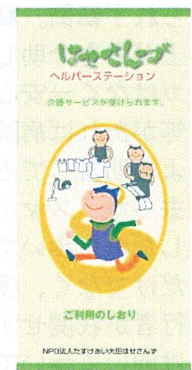
- 求人中
- 仕事紹介
- 福利厚生
- 有償ボランティアなどの紹介
- 理事長インタビュー

お知らせもタイムリーに



簡便な情報提供

リーフレットPDFがダウンロードできます



PDFダウンロード



ヘルパー活動日誌
伊藤 佐代子

はせさんずの介護ヘルパーになって、あつと言う間にならなりました。20年近くになりました。ほとんどが家事援助の仕事です。ヘルパーを始めた頃は一人暮らしは寂しいだろうと勝手に想像していましたが、最初に担当した一人暮らしの女性は、「ヘルパーや家政婦さんの来ない一人

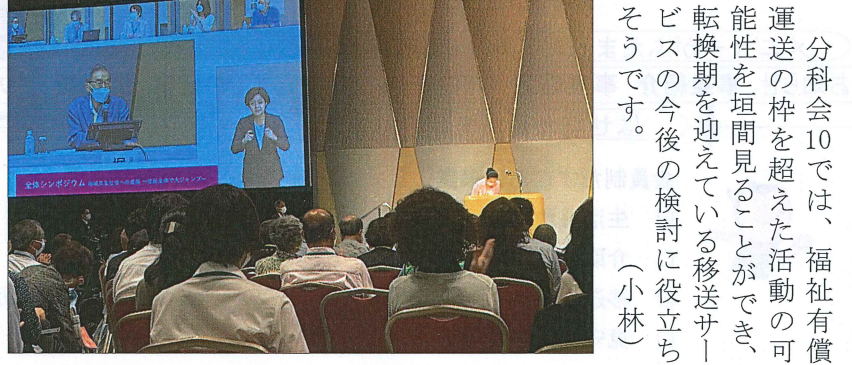
の日は欲しい、音楽を聴いたり新聞に投稿したり、やりたいことがあるのよ」と話され、いろいろな方がいるのだなあと思つたのをよく覚えてあります。今はあまり遠くの訪問先は行きませんが、電動自転車もありますが、当時は田園調布の奥まで行って、冬は五時になると暗くて帰る道で心細くなったり、自転車がパンクしてずっと押し

て帰ったりしたこともありました。仕事を始めたのは50代で、まだ若く元気だったなと振り返り、あの頃に電動自転車だったら坂道も楽だったのになんて思いません。つらいこともありま

さわやか福祉財団主催の東京サミットに参加
9月1日(木)、2日(金)の2日間、品川のグランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールで開催されたサミットに、はせさんずからも3名が参加しました(1名はインストラクターとしての参加)。
公益財団法人さわやか福祉財団が主催して、3年前の大阪、昨年の神奈川に続く3回目(ホップ・ステップに続くジャンプ、つまり総仕上げ)として開かれたもので、メインタイトル「いきがい・助け合いサミット in 東京」に「共生社会をつくる地域包括ケア生活を支え合う仕組みと実践」というサブタイトルも

ついていきます。さらに「誰もが、自分を生かして幸せに暮らす社会へ」という趣旨説明の語句も。会場参加とオンライン視聴、2つの方法での実施です。
おもな参加者は、生活支援コーディネーターや協議会、行政、社会福祉協議会、地域包括センターなどの職員、民生委員、自治会役員、そしてNPO、一般市民。全体シンポジウムに加え、37の分科会が開かれ、並行してポスター展(総合事業に定める生活支援の助け合いと、それ以外の地域共生活動の2カテゴリー)、生活支援ロボット特別展示、後援団体による特別展示などが展開されていました。分科会のうち「10自動車

による移動支援をどう広げるか」「13医療・介護サービスと生活支援の助け合い活動とのネットワークをどうつくるか」「20在宅での人生の最終章の過ごし方及び看取りのあり方」「32子どもと高齢者の交流や助け合いをどう広げるか」「34地域は、地域で孤立しがちな人どうつながるか」に参加しました。それぞれに、進行役、パネリスト、アドバイザーの発言を興味深く聞きました。ただ、地域での支え合い、助け合いの振興は行政に近いところの旗振りで進めるもの? と、ちよつとした違和感も……。



2023年版
カレンダー予約受付中
A4サイズ 1部700円
お申込は、事務局まで



■事務局だより
ヘルパーステーションの星麻希さんが7月末に、デイホームの松本剛司さんが10月に退職しました。

はせさんず各部門スタッフより 聞いて! 聴いて!

会員制たすけあい活動
先日、池上駅ビルの下で車いすの人と杖歩行の人が衝突している場に出会った。車いすが通路変更したので杖歩行者が俊敏にはよけられず転倒。私は立ち上がりを介助したがケガはなく一安心。痛み等があれば病院に行くよう助言してその場を去った。スマホを操作しながら歩いている人だけでなく、多くの歩行者が我関せずと前だけ向いて歩いている。交通安全運動は歩行者に注意を促すことも必要と思う。(佐藤 悟)

ヘルパーステーション
この夏、不注意から左手首をケガして、サービスを代わってもらった。暑いなか、自転車に乗れず徒歩やバスを利用し、いつもとは違う光景も見ました。バスは高齢者が多く、座るのを見届けてから発車するなどの運転士の気遣いも知りました。利用者からはいつもとは逆に「気を付けてね、若くないのだから」と注意されてしまい、ちよつとの油断がケガにつながることを実感した日々でした。(平尾淑江)

ケアサポート
救急車の音を聞いた時に「どうぞ間に合いますように」と喉の奥がぎゅつと締まります。そんな折、あるご利用者が皆様にも伝えてはどうかと「救急隊員からの切実なお願い」を話してくれました。出動した際、玄関に脱いだ靴を並べ直してくれる家があるが、ターポリン担架で運びやすい向きで置いているのでそのままにしておいて。心配りがタイムロスになることもあるんですね。覚えておきましょう。(清水桂子)

デイホーム
手話を習い始めここ数か月で、聾啞の方たちにとって話し相手の口形はとても大切だということがわかりました。口の動きを読み取って判断することが多々あるそうで。コロナ禍のなか、マスクは必需品。高齢のご利用者との会話でも、やはり以前より聞き取りにくい、マスクに隠されて口形が見えていないから言葉が判断しづらい、気持ちも伝えにくい。早くマスクを外せるときの願いが毎日です。(豊田奈々江)

市民後見
はせさんずの成年後見事業は利用者の見守り訪問を必須にしています。月1回2名で訪問し、健康状態の把握と生活状況の聞き取りをし、相談を受けますが、実はこれが大いに役立っています。最初は声が出にくかった人が1時間もたつと積極的に話すようになります。また、体調が悪くて動けないでいる場面に遭遇し、救急車を手配したことも。こんなときは見守りをやっていて本当によかったと思います。(矢嶋早苗)